

## 2016年4月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 今月も景気判断については、「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」との判断を継続しました。個人消費が依然盛り上がりを欠き、公共投資も減少傾向が続いています。一方、雇用環境は改善傾向が続いており、観光も一部にやや弱めの動きもみられますが、外国人客の入込みを中心に堅調を持続しています。このため、道北地域の景気は、基調的には持ち直しの方向にあるとみています。

### ■個人消費の動向

- 大型店売上高は、3月は前年比▲0.5%と引続き前年水準を若干下回る結果でした。もっとも、各店一様に減少している訳ではなく、売上を伸ばしている先もあります。地域別には、旭川市内のマイナス幅が大きい傾向が続いていますが、その他も地域により区々です。店舗間の競争が引続き厳しいようです。
- 3月の新車登録台数は、前年比▲7.6%でした。「軽自動車を除く車種」と「軽自動車」とに分けてみると、「除く軽自動車」は+0.1%で前年比横ばいでした。さらに「軽を除く乗用車」をみると、+2.5%でした。普通乗用車は新車投入効果から底固い需要が出ているようですが、一部メーカーで事故による操業停止があった影響も若干出ているようです。「軽自動車」は▲19.4%と大幅マイナスでした。なお、自動車に関しては、今後、熊本地震による工場生産停止の影響が出てくる見込みです。

### ■観光の動向

- 3月のホテル・旅館の宿泊客数は前年比▲3.8%と減少しました。市内のホ

テルの稼働率は、ホテル間の競争が増していることもあって、昨年11月以降5か月続けて前年の水準を下回っています（3月67.4%＜前年78.8%）。ただ、昨年が特殊要因（イオン開業前の諸準備）で伸びた反動もあると思われます。

外国人客は、中国や台湾からの訪日客を中心に引続き増加していますが、そのペースは一頃に比べると少し落ちているようです。為替円高の影響が出ているのかもしれませんが、もっとも、引続き底固い入込みがみられており、「当地観光を支えている面は変わらない」との声を聞きました。

国内客（主として道外客）は、少し弱めだったようです。新幹線開業で沸いた道南に流れたほか、「今年は流水をみられる日が少なかったことも影響した」との指摘もありました。「観光地点動向」をみると、全体では前年比▲3.9%でした。ウトロは+21.2%と好調でしたが、層雲峡は▲11.5%と不牙えでした。

空港旅客数は、道北4空港合計で前年比+2.3%（旭川空港は同+4.5%）でした。国際線利用客数は同+79.9%と大幅増加でした。

## ■公共投資の動向

- 公共工事請負額は、3月は27年度補正予算やゼロ国債による発注があったことから、単月で前年比+26.9%と増加しました。もっとも、年度累計では▲9.9%でした。「27年度補正予算で道北地域にも相応の工事予算が確保できる見込みなので、4月以降発注が本格化することを期待している」との声を聞きました。

## ■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。2月の有効求人倍率は、旭川が1.04倍（前年0.92倍）と既往最高を記録しました。稚内は0.94倍（同0.96倍）、北見は0.98倍（同0.95倍）、網走は1.00

倍（同 1.01 倍）といずれも高水準でした。

## ■今後のポイント

- 4月1日に公表した3月短観では、道北地域の業況判断DIは+2でした。3か月前に比べて低下しましたが、引続き、現在の景気を「よい」と感じている企業の方が「悪い」と感じている企業よりも多い状況です。2015年度の企業の業績見込みをみると、売上は▲0.1%と横這いでしたが、経常利益は+65.0%と大幅増益でした。売上が伸びていない中での増益ですので、主として燃料費などをはじめとする投入経費の減少によるものと考えられますが、当地企業の業績は比較的良好な状況にあるとみています。全体としてみて、当地の景気は決して悪くはなく、私どもが毎月示しているように「基調的には持ち直している」状況が続いているものとみてよいと思います。
- 日本経済全体をみると、中国をはじめ新興国の景気スローダウンや年明けからの為替円高化、株価下落の影響もあって、景気の先行きについて何となく不安視する向きが増えているようです。こうした中で、日本銀行の景気判断は、これまでに若干引下げましたが、「新興国経済の減速の影響から輸出・生産面に鈍さがみられるものの、基調的には緩やかな回復を続けている」としています。この先、熊本地震の影響が生産・消費面に出てくるのが懸念されますが、一方で、「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の効果に期待しているところです。
- 当地経済は、新年度を迎えて2015年度補正予算や2016年度予算に基づく公共事業の発注が徐々に出てきていて、建設業界ではその効果が地域内に浸透することを期待しています。観光もシーズン本格化を迎え、引続き当地経済の牽引役となることが期待されています。今後は、これらに加えて、個人消費の動きと民間の設備投資の動きに注目していきたいと思います。

以 上